

平成26年度

地域で決める学校予算事業第2回評価会議 会議録

平成26年12月2日 会議

地域教育課

平成26年度 地域で決める学校予算事業第2回評価会議 会議録

開催日時	平成26年12月2日(火) 10時00分～11時30分
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室
内 容	<p>○ 開 会</p> <p>副委員長の選出</p> <p>1 平成27年度の事業評価（プレゼンテーション）について</p> <p>2 その他 ・文部科学省大臣表彰の推薦について</p> <p>・第4回交流の集いについて</p> <p>○ 閉会</p>
出席者(委員)	加藤久雄委員 瀬渡 章子委員 岡田龍樹委員 中川直子委員
(事務局)	石原教育政策課長 松田地域教育課長(庶務) 地域教育課員4名
開催形態	公 開 傍聴人 なし
担 当 課	地域教育課

議 事 お よ び 協 議 内 容

○ 開会

- ・副委員長の選出

加藤委員長より瀬渡委員を指名。瀬渡委員承諾。

- ・瀬渡副委員長 挨拶

私の専門的などころではないので副委員長を受けることに心配ですが、皆様のご協力をお願いしまして、非常に大事な評価会議ですのでしっかり務めさせていただきます。

- ・加藤委員長より本委員会の公開について確認

会議の公開、写真撮影・録音の了解

会議録の署名委員は、瀬渡副委員長と中川委員

傍聴者なし

◎議事

1 平成27年度の事業評価（プレゼンテーション）について

- ・事務局説明 8つの提案（パワーポイントおよび資料①～⑦使用）

加藤委員長： 「プレゼンテーション」と言っていたものを「プレゼンテーション&意見交換」という形にするということです。趣旨はこの通りですが、事務局からの説明にあった地域の方のプレゼン評価に対する「もやもや感」に対して、私どもとの対話の時間をとりましょうということですね。「&」は「プレゼンテーションと意見交換」これでいきましょう。

時間ですが、1案2案があります。第1案はコンパクト、一日で済む。第2案で10分10分たっぷりコース、二日間。二日間とるのは先生方しんどくないですか。二日続きでとるのですか。

事務局： 日にちが飛んでも構いませんが、参考までに机の上にプレゼンテーション日程調整表を置かせてもらっています。事前に皆さんに伺いましたがなかなか調整がついておりません。欠席の石川委員は今日決まった日程に合わせていただけるとお返事をいただいています。なかなか二日とるのは難しい、一日でも今のところ全員参加の調整は出来ていない状況です。

加藤委員長： 一日でやりませんか。まず8分7分と10分10分の差が出ます。今までは10分5分でした。

二日ですと午後二日間という感じですか。

事務局： 午後にすると13:00～17:00とすると4時間はかかります。午前中だと9:00から4時間かかると13:00になります。先生方、大学の授業とか、会社のお仕事もありますので、第3案もあります。

加藤委員長： 第3案の8分7分の二日間もある。

岡田委員： 全員が揃う日はないのですね。

瀬渡副委員長： 今までも全員が揃ったことなかったですね。実際は半日ダメな方もおられました。

意見交換を充実させるとなると、丸一日は私自身身体的にもきついし、午後ぐらいから集中力が途切れてきてしまいます。せっかく一生懸命発表してくださっているので少し申し訳ない気持ちがありました。時間を増やさずにしても増やすにしても、調整出来るところで二日間という方法もあります。

加藤委員長： 一日ですか、午後二日ですか、まず決めましょう。一日ですと正直午後はふらふらです。

岡田委員： 前半は時間超過するのですが、後半は時間的に短くなっていく傾向があります。

加藤委員長： 二日でやる。よろしいですか。二日でやるとしても5時を回りますので、8分7分か、9分8分か、微妙なところですが、最大10分10分で事務局にお任せしていいですか。終わりの時間もありませんから、10分10分以上はないとして、8分7分以下もない中で決めていただいていいです。確認します。第2案、最大10分10分、ミニマムで8分7分の間で事務局にスケジュールを組んでもらいます。

発表方法ですが、これは周知徹底みたいな感じで「交流の集いで作成するものをお使いいただいているですよ。」と伝えます。使ってはいけないという話はないので、これは周知していただきます。参加者もお考えがあって関係者は全員揃ってないといけないみたいな雰囲気もあるので、「人数は多くなくてもいいですよ。代表者の方でしていただいているですよ。」と周知しましょう。

内容ですが、今回は意見交換を含めますから、「抱えている悩みや課題、質問なども話して下さい。」と周知します。名称変更から伴っている内容の部分です。内容が名称とリンクしているということです。

非公開ということは、前回に非公開ですと決まっていました。

自己評価は新しい企画で資料③にありましたが、協議会で事前に自己評価をしていただいて、ヒアリングの時の私たちの手持ち資料にするけれど、評価対象にはしないということで、ヒアリングの資料でやろうということです。自己評価というものを入れるのはなかなか良いことだと思います。自分たちがやってきたことを振り返ることが、短時間で〇とか文字に起こしていく作業があってよいと思います。

岡田委員： 「おおむねできた」と「良くできた」の区別が微妙な感じですね。私、文科省の事業を受けて大学でやっていますが、そこでは「4番」の「良くできた」は「計画以上にできた」「自分たちが考えていた以上にできた」という項目があります。

加藤委員長： わかりやすいですね。

岡田委員： そこに〇があると必ず質問が来ます。「どういうことですか。」普通は「おおむねできた」に〇をしています。ただ、イベントでも自分たちが考えていた以上に波及効果があったアピールの材料にはなりません。「計画以上にできた」という項目があると面白いと思います。

加藤委員長： 自己評価を導入するということをご賛成いただいたとして、具体的にはご指摘ありましたが、この一枚もののチェックシートの表現とか、項目の数ですね。

岡田委員： 「予算が計画以上にできた」というのはどうでしょう。

加藤委員長： 予算計画よりはうまくいったと、意外と安かったということもあるかもしれない。「計画より良くできた」というのはわかりやすい。「良くできた」は主観でしょう。計画書

も出してもらっているのでもそこに戻れるじゃないですか。いいですね。いきましょう。

「おおむねできた」は難しい表現ですが、普通だということですね。

事務局： 例えば「計画以上に」を「(計画以上に) できた」とかっこにははどうですか。「予算はできました」ぐらいで。

加藤委員長： 予算のところはできて当たり前のところなので、項目から抜いてもいいかもしれません。「良くできた」のところを白抜きにしておいてはどうですか。

岡田委員： 「できた」か「あまりできなかった」か「できなかった」で、「良くできた」に○をつけた場合は理由を述べてくださいという感じですね。基本は「4」には○はつけないと、しかし是非ここはというところは「4」をつけてアピールしてもらって、私たちも聞くと。広告収入が予想以上にあって計画した予算がいらなかったとかあるかもしれません。

加藤委員長： この間もある学会で学会のレジメに広告費を取ったら本当に取れました。そういうことはありますね。計画性は大事なので、「計画していたよりも良くできた」あるいは「良くできた(計画していたよりも良くできたという意味です。)」とかっこ書きをしてはどうですか。「おおむねできた」は普通にわかるけれど、「良くできた」は抽象的だと捉えられるのであれば、「良くできた」とは、計画していたよりもうまいといったという意味です。注意書きでもしてもらってもいいかもしれません。それでいましょう。資料③の言葉はこれでいいですか。

瀬渡副委員長： チェックシートのタイトルですが、「地域学校連携に関するチェックシート」、何をチェックするのだろうと思います。連携みたいなところに重点をおいてチェックする内容なのかなと最初思いました。

事務局： ご指摘ありがとうございます。確かに事業なので「地域で決める学校予算事業に関するチェックシート」でいかがでしょう。

加藤委員長： もっと大きなところでつかんだ方がいいですね。そういうところありませんか。

瀬渡副委員長： 昨年度のコーディネーターとの意見交換会の時に、学校の先生がなかなか理解していただけないとよく話が出ていました。それはどこになりますか。「役割分担を明確にしましたか」というところでチェックされるのですか。何か今困っているところを項目に落としていけたら自己点検していただけるチェックシートになるかな。適当な項目は今思いつきませんが。

加藤委員長： 「事業推進に関する組織体制はうまくいきましたか。」今項目がないですが、そこはいつもあがってくるテーマです。学校側の理解とか、大胆に書きましょうか。「学校側の理解がありましたか。」とか、学校評価みたいですね。「事業推進のための組織づくり・・・」、「14番」には書いていただけたらと思います。「事業取組の役割分担を明確にしましたか」としたぐらいに、「事業取組の役割分担は機能しましたか」「うまく機能しましたか」「うまく働きましたか」などはどうかですか。あるいは「役割分担を明確にし、うまく働きましたか」「機能しましたか」いつも出てきますし、○をつけてもらった方がその問題がはっきりしますね。理解がない人はないという意味ではなく、学校全体がという意味だと思いますが、学校全体が取組に理解してくださいという意味ですが、永遠のテーマですね。入れてください。

事務局： 「機能しましたか」ですね。「2番」の下ぐらいに。

加藤委員長： 「2」か「3番」ぐらいに、表現は任せます。

瀬渡副委員長： これがあると意見交換がやりやすいです。

岡田委員： そうです。この点数のつけ方はどうですか。と聞けます。

加藤委員長： これを知るために向こうもいろいろ言ってこられるし、私たちも質問するし、これをいただければ、かなりコンパクトになります。課題を書いてくださっているので話やすいです。これでやっていきましょう。

評価対象は事業計画書とプレゼンテーションで、自己評価チェックシートは評価対象にしない。

次は評価方法を変えましょうということで、左右対照表を作ってくださいました。70点満点を1.4かけていたのを、直観的にわかりにくいところがあって、60点、40点でいこうということについて、60:40は比率の問題で100点にしていた方がいいと思いますが、計画書とプレゼンが6対4の比率でいいですか。

事務局： 45対25を照らし合わせて、だいたいそんなに変わらないです。

加藤委員長： 点数数値のことは良しとして、内容論は網かけが入っているところが新しいところで、「プランと計画性」を提示していて、順番を変えてくださっています。書いてくださる方が書きやすい、つまり計画書がわかりやすく、我々もわかりやすく、評価しやすくしようと。

事務局： 資料⑤資料⑥資料⑦を比べながらご覧ください。本当は大きい変更を考えていました。しかし、資料⑦は地域の方に書いていただく用紙で、大きく変えると負担感につながるのではないかと。これをベースにいかに評価しやすく、地域の方もここを見られているのがわかるものとなるように資料⑦と整合性を持たせながら、今回新たな項目を付け加えたのが正直なところです。

加藤委員長： 連動させているのですね。

事務局： 無理なところもありますが、なるべく連動できるように工夫しています。

瀬渡副委員長： 地域の方には資料⑦にあるように、ここにはこの内容を書いてくださいと示されるのですか？今までそれがあまり明解でなかった気がします。

事務局： 平成27年度の試案・試算の作成は10月に地域の方に依頼しています。ここにはこういうことを書いてくださいと説明書は入っていますが、こういう観点で見るとのことまでは、この会議が終わっていませんので伝えきれていません。もしこの会議で正式に通れば、実施日までに伝えることは可能です。

岡田委員： もう作り始めているのですか？

事務局： はい。

瀬渡副委員長： 地域の方にもはっきりこの視点を盛り込んで書いてくださいということが明確に伝わった方がいいと思います。そういうことが求められるということがわかると思います。今までの計画書は私自身も評価できないと言いますか、わかりにくい。例えば評価方法のところが書いているけれども、あまり書いていないところがありまして、実際にそういうことをやっていないかというところとそうでないかもしれないし、今回改善されるといいと思います。

加藤委員長： これでお認めいただいたとして、もしお気づきの点がありましたらご指摘いただくとして、よほど不都合があるということであれば、試案・試算を10月から作成始めていただいているところへ評価はこういう観点・整理でやりますとお伝えすることでよろしいですか。我々も頭がすっきりしたところだと思います。

「交流の集い」での評価委員の参加については、調整をして参加をして意見交換の場とするということによろしいかと思えます。

ありがとうございました。8項目、きれいに資料作りをしてくださっているので、スムーズに流れてきました。次の議事ですが、事務局よりその他について一括で説明いただきます。

2 その他

事務局： ・文部科学大臣表彰受賞決定について報告
・「第4回交流の集い」について報告

閉会

平成 年 月 日

署名委員

署名委員
